

【神流町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本町では、第3次神流町総合計画において、「郷土を育み、未来を担う人財を育むまち」を目標とし、情報通信技術（ICT）を活用し、情報活用能力をはじめ、これからの時代を生きていくうえで基盤となる資質・能力を確実に身につけ、個に応じた学習を推進することを目指している。また神流町教育大綱においても学校のICT環境整備や教員活用指導力向上を主要施策の1つとして掲げている。

2. GIGA第1期の総括

国のGIGAスクール構想を受け、本町では、令和2年度から令和6年度までに町立万場小学校および中里中学校2校に対し、計67台の1人1台端末の整備を完了するとともに、無線LAN環境の整備を行い、ICTを基盤とした新たな学びの確立を進めてきた。

この取り組みによりICT活用が推進された一方で、児童生徒の端末持ち帰りに関して、家庭でのインターネット環境の整備状況の有無による格差や端末の適切な安全管理など、対策が必要となった。今後、これらの課題を解消し、ICTを活用した教育の質向上を図る必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

グループウェア（GoogleWorkspace）を活用し、学習ツールや提出物の一元的な管理を行うことで生産性を向上させ、児童生徒の学習意欲の向上・教員の負担軽減・指導力向上を目指す。Classroomなどの授業プラットフォームを活用することにより、クラス単位で生徒や学習内容を運営・管理し、生徒の興味・関心や習熟度に応じた個別最適な学びや、保護者への連絡事項の共有や生徒・児童同士の交流など協働的な学びを推進する。

また、校外学習でも端末を情報共有や情報収集に活用し、事前学習から現地での体験活動、まとめ・発表にわたるまで、学び方の選択肢を見つけ実践すること、協働的に学ぶことに役立てる。

ALTによるビデオ通話アプリ（Zoom）を活用した1対1の放課後オンライン英会話レッスンを実施し、英語力向上はもとより、主体性を育み、多様な価値観を受け入れ、国際化に対応できる児童生徒を育成する。